



八 剣 山 通 信

第 7 号

八 剣 山 発 見 隊

2003年 2 月 1 7 日 発行

2月16日(日) 「しばれ陶芸体験」を実施しました。

【行事の概要】

この時期の八剣山山頂は、白い雪に覆われた岩の壁が空高くそびえ立っており、晴れた日には青空の中に吸い込まれていきそうに感じられます。八剣山のふもと、深い雪と札幌市内よりも厳しい寒さに覆われています。この自然の寒さを利用し、今の季節でなければできない陶芸を体験します。

「しばれ陶芸」。冬の寒さを利用して、粘土の表面を凍らせることで、自然の織りなす寒さを、目に見える形で文様としてあらわします。いったいどのような作品ができるのかは、その日の寒さという自然にお任せ。作品の完成だけでなく作る過程についても、おおいに楽しむことができると思います。

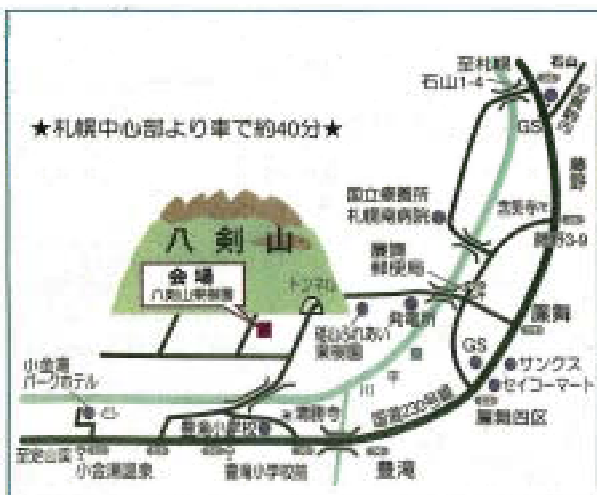
今回は、「宙(そら)工房」の川口英高さんにご指導をいただき「しばれ焼き」の文様を付けるところまで体験し、乾燥させて焼き上げるのは、後日、川口さんをお願いします。3月2日の行事開催時には、会場に皆さんの作品が並びますので、3月2日の行事に参加されたあと制作した作品を、それぞれお持ち帰りいただきます。

また、昼食は前回と同じ越冬野菜を利用した豚汁を、皆さんに味わっていただきます。前回から2週間が経過し、越冬野菜は更においしくなっているでしょうか。

このほか、3月2日の行事の準備として、薫製づくりの下準備や氷ハウスづくりのための氷の切り出しを行うほか、そり滑りなどの雪遊びも行います。

主 催：八 剣 山 発 見 隊

【会場の位置図】



【行事の感想】

はじめに川口さんから「しばれ陶芸」に関する簡単な説明を受けてから50名の参加者の皆さんそれぞれが実際に陶芸づくりに挑戦しました。

陶芸を初めて体験する人や、数十年ぶりに粘土にさわる人も多い中、粘土をひも状にしたり板状にしたり、ちぎって張り付けたりしながら、自分だけのコーヒーカップや湯飲み、部屋に置く小物などを制作。作品を少し乾燥させてから川口さんの指導で、黒と白の化粧泥掛けで文様を描きました。本来は、自然の織りなす寒さという文様付けの追加を行う予定でしたが、気温が高くて断念しました。本日の作業はここまで。

後日、作品を十分に乾燥させて、川口さんの工房の窯で焼いてもらいます。皆さんの作品が完成するまで少し時間がかかりますので、楽しみにお待ちください。

お昼は、前回と同じ越冬野菜を使った豚汁を味わいました。前回よりもおいしくなっているかどうかは、味わった皆さんの舌に判断をおまかせします。

また、次回の薫製づくりのために鹿肉を切り分けるとともに、氷ハウスづくりのために池から氷の切り出しを行い、部分的に氷の積み上げを行いました。



【作品をストーブの上で乾燥中】

【今後の行事予定】

- ・ 3月 2日 薫製づくり、氷ハウスづくり
- 16日 雪中山歩き、木工教室
- ・ 4月 13日 桜の苗木植樹、八剣山すそ野探検
- 27日 豊平川ラフティング体験

発行：八剣山発見隊事務局（八剣山果樹園）
061-2275 札幌市南区砥山126番地
011-596-2280 FAX 011-596-2280